

研究課題名	新規血液透析導入患者のバスキュラーアクセスの開存率と HDF の関与
研究期間	実施許可日 ～2031 年 3 月 1 日
研究の対象	2011 年 10 月から実施している多施設共同研究“慢性腎臓病予後調査”（E2011-0457 号）において診療録の収集に同意された患者さんのうち、2011 年 10 月 1 日から 2021 年 9 月 30 日の間に新規に血液透析導入した患者さんを対象とします。
研究の目的・方法	研究目的：血液透析患者さんの合併症として、バスキュラーアクセストラブルが最も頻度が高いことが知られています。経皮的血管形成術（percutaneous transluminal angioplasty: PTA）によるバスキュラーアクセス狭窄の治療が普及し、バスキュラーアクセス狭窄を起こすリスク因子について数多く報告されています。2012 年から HDF 治療（血液ろ過透析）の保険適応が拡大し、全死亡率や心血管死亡率が改善したという報告がありますが、バスキュラーアクセスの開存率との関連を示したものは未だ認めません。本研究の目的は、バスキュラーアクセスの開存率と HDF 治療の関連性を明らかにすることです 研究の方法：ご参加いただいた E2011-0457 号「慢性腎臓病予後調査」で収集した診療録（カルテ）情報を調査して行います。
研究に用いる試料・情報の種類	情報：身長、体重、性別、既往歴、血液検査、内服薬、透析記録、PTA 記録、入院や死亡の有無、画像検査結果等
外部への試料・情報の提供	ありません。
利用または提供を開始する予定日	本学における実施許可日
個人情報の保護	本院にて E2011-0457 号で収集した情報は、解析する前に、氏名・生年月日・住所等の特定の個人を識別できる記述を削除し代わりに研究用の番号を付け、どなたのものか分からないように加工しています。また E2011-0457 の共同研究機関からも、本院と同様にどなたのものか分からないように加工した情報の提供を受けており、本院にて個人の特定は出来ません。
研究組織	本学の研究責任者 広島大学病院腎臓内科 教授 正木 崇生
その他	
研究への利用を辞退する場合の連絡先・お問合せ先	研究に試料・情報が用いられることについて、研究の対象となる方もしくはその代諾者の方にご了承いただけない場合は、研究対象としませんので下記の連絡先までお申し出ください。なお、お申し出による不利益が生じることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた

情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。

また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。

広島大学病院 腎臓内科

担当者：助教 前岡 侑二郎

〒734-8551 広島県広島市南区霞 1-2-3

電話番号：082-257-1506